

メコン・ウォッチ特別講演会2008年

メコン河とサルウィン河

～東南アジア2つの国際河川の過去・現在・未来～

サルウィン河、メコン河は共に中国に源流を持つ国際河川であり、上流ではそれぞれ怒江、瀾滄江という名前を持っています。怒江、瀾滄江が主に流れる雲南省はこれまで豊かな自然と多くの少数民族が暮らす秘境、というイメージで語られてきました。しかし、1999年に江沢民政権が打ち出した「西部大開発」により、工業化された東部への「電力供給源」としてその姿を変えつつあります。雲南省を流れる二つの大河は、水力発電ダムの建設地として熱い注目を集めているのです。

一方のメコン河下流域では、1992年のカンボジア和平合意からインドシナの戦乱に終止符が打たれたことで、流域の各国は当時タイのチャーチャーイ首相が提唱したように「戦場から市場」へとその政策を大きく転換させました。今や、ベトナムの発電会社がラオス南部に投資、発電事業を行う一方、サルウィン河のビルマ部分で中国企業がダムを建設、タイが電力を購入するといった計画があるなど、流域の開発は世界銀行・アジア開発銀行といった国際援助

機関の手から、流域の政府機関・民間企業に移ってきています。また、急激な経済成長を続ける中国も投資や援助という形で大きな影響を持つようになってきました。国際河川のため調整が難しいとされてきたメコン本流ダムの建設が、ラオスやカンボジアなど下流部でもにわかに関心を帯び始めています。このような開発のアクターの変化は流域の人々の生活にどのような影響を及ぼしているのでしょうか？

今回の講演会では、中国雲南省の研究者、黄光成氏による著作『瀾滄江・怒江伝』の日本での翻訳・出版を期に、翻訳にご協力下さった朝日新聞編集委員、加藤千洋さんをお迎えしてこの地域に暮らす人々や近年の変化についてお話を伺います。さらに、下流域から見た開発の全体像をタイの環境NGO、TERRA代表のプレムルディー・ダオルオンさんから解説していただきます。また、メコン・ウォッチのスタッフが両河川からの現地報告を映像や資料を交えてご紹介いたします。

【講師】 加藤千洋さん(朝日新聞編集委員)

プレムルディー・ダオルオンさん

(タイNGO、TERRA代表)

メコン・ウォッチスタッフ

【日時】 2008年6月15日(日)14:00～17:00

【通訳】 英語からの逐語通訳あり

【参加費】 無料

【会場】 台東区生涯学習センター・学習館

台東区西浅草3-25-16 Tel. 03-5246-5827

【参加申込】

資料の用意などがありますので、事前にご連絡下さい。お申込みの際には、お名前、ご所属、緊急連絡先、メコン・ウォッチ会員の方はその旨もお伝えください。定員 90名(先着順)。定員を超えた場合には、こちらからお断りの連絡をさせていただきます。

★申し込み・問合せ:

特定非営利活動法人メコン・ウォッチ(木口・杉田)

Tel. 03-3832-5034

Fax. 03-3832-5039

event@mekongwatch.org

http://www.mekongwatch.org

生涯学習センターまでの案内図



【アクセス】

地下鉄日比谷線「入谷駅」1番出口徒歩約8分

JR「鶯谷駅」南口徒歩約15分

区内循環バス 北めぐりん「生涯学習センター北」

南めぐりん「生涯学習センター南」

※講演内容については当日、若干の変更の可能性があります。本講演会は独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します。また、この特別談話室の後、17時15分から18時30分まで、メコン・ウォッチ会員総会を開催します。私たちの活動にご関心をお持ちの方は会員以外の方でもお気軽にご参加ください。